

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0872
施設名	松本おひさま保育園
施設所在地	江戸川区松本1-9-3
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 日当たりのよい園庭・日当たりのよい保育室、園の特徴を活かし、「光」をテーマとした。七夕の日に見たブラックパネルシアターの光に興味関心を持ち、子どもたちからなぜ光るのか。どうしてそのような色になるのか等、興味を持つ声が多くあった。また、感触遊びで寒天に色を付けたカップを窓辺に飾ると日差しの光で色が混ぜ合わさる光にも興味を持っていたことから光について探究する為、テーマとした。

2. 活動スケジュール

- 10月 ブラックライトパネルシアター鑑賞
- 11月 廃材遊びの中で懐中電灯を使い光の変化を知る
- 1月 カラーセロファンを使いステンドグラス「雪だるま」を制作
- 2月 グラスデコ遊び
春の花を制作
- 2月 卒園遠足(水族館:光のトンネル)
- 3月 家制作(懐中電灯を使って光の反射等を探究)
- 3月 水族館制作(蛍光塗料で光の反射を探究)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

保育室を光の反射が見やすいように整備。

制作ワゴンを準備し、活動に必要な絵の具、画用紙、グラスデコ等の教材を準備。

子ども達が自由に光を探究できるよう手に取りやすい場所に懐中電灯を設置。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

10月 ブラックライトがどうして光るか探究

11月 廃材遊びの中で懐中電灯を使い光の変化を知る

1月 窓辺に飾り太陽の光を通す事で床に色が移り色同士が混ざる綺麗さに気づく

2月 春の花を制作。始めは不透明だった絵の具が乾くことで透明になりその色の変化を楽しむ。また、色を重ねて塗ることで量の違いも含め、光や色の変化に気付く

2月 水族館の中にある水中トンネルにて、水中に差し込む光を見つけ反射しながら広がっていく光を探究する

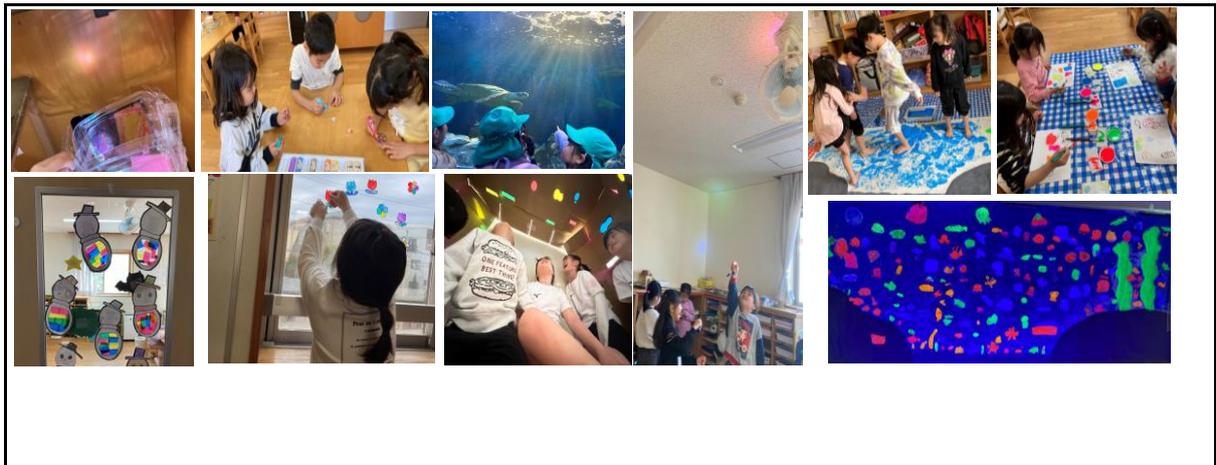
3月 室内に段ボールで家を作り、天井・左右の壁をくり抜きそこにカラーセロファンを貼る。懐中電灯で内側、外側からライトを近づけたり離したりしながら光をあてる事で色の強さや向きなどに気付く。その後、家の中ではなく外に出ると懐中電灯自身に自分の好きな色のカラーセロファンを付け床や天井に色を移し光の映り方の変化に気付く。その中で友達と一緒に光を合わせる楽しさに気づき「混ぜたら何色なるかなー？」と探究した。

3月 水族館の表現活動に発展し、共同制作で大きな海を作り、そこから個人で思い思いの魚を描き蛍光塗料で仕上げる。色を塗った後は好きなところに魚を泳がせ全員の魚が揃ったところでブラックライトを当て光の反射や色の変化に気づき、探究することが出来た。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・七夕のパネルシアターの時にブラックパネルシアターを見て「光が綺麗だね」と興味を持つ姿があった。10月に改めてブラックパネルシアターを見た時に光る仕組みに興味を持ったようだったので、説明すると、子どもたちから「光らせてたい、絵を描いて光をあててみたい」といった声が聞かれた。
- ・ブラックパネルシアターや保育室内に入り込む太陽の光を見て、廃材遊びをしていた際「これを光らせたら何か映るかな」と子どもの提案により、懐中電灯で光を照らすこと、自ら暗くなる所を探して作った制作を光らせることを取り入れた。壁に写る光の形の面白さに周りの子ども興味を示し、「違うやつ（廃材）でも光るのかなあ」と、わくわくしながら試してみる姿が見られた。
- ・雪だるま制作では、クラスでよく行っている技法で完成すると子どもたち自ら光にかざしてみたり、「窓に飾りたい」という声から作った制作を窓に飾ると「色々な色があって綺麗」と喜んでた。また、時間によっては床にも光が写ることに気が付き、見え方の違いに興味を持った。
- ・グラスデコを使って春の花を作った。完成した物を窓に貼ったところ、カラーセロハンとは違う光り方という事に気が付き、次に作る時に自分達で配色を考えて塗る等、工夫する姿も見られた。
- ・卒園遠足で行ったしながわ水族館では、水槽を集団でグルグルと回る『いわし』の群れを発見。イワシの銀色の姿が水槽の光なのか考えながら見る姿もありキラキラと光る姿に目を輝かせていた。地下に移動するエレベーターの中ではアナウンスと共に海底の話と左右にある棒状の壁面から光が入る。また、扉を開けると薄暗さの中にも上を見上げると太陽の光を模した物があり、水の中に差し込む光に対して「明るさ」や「ひかりのあたたかさ」「光の動き」等を感じ話す姿もあった。
- ・水族館の体験でライトを当ててみることで光がさらに届くのではないかと感じた子どもたちが、室内に段ボールで家を作り色々な形の穴をあけカラーセロファンを貼っていた。中に入った子ども達は天井からの蛍光灯の光、懐中電灯の光との光の強さや動きの違いに気が付き、自らライトで家の中や外からと様々な方向から照らし、光の動く先や広がりを楽しんでいた。その遊びの中で子どもたちからライト自身にセロハンを貼り天井に写し遊び始めた。「光を合わせると色が変わるよ!」と声を掛け合いグループで「赤、青、黄色、緑」と色を合わせ天井や床、家の壁面に投影し、色が変わったことをみんなで共有する姿が見られた。
- ・卒園遠足後水族館を作りたいという子どもの声から、水族館を作成。どのように作ろうか子ども達が考え、まず絵を描く、でも光ったら楽しいよねと案が出て、蛍光絵の具を使って全体で水族館制作した。見た目は絵の具と同じだが、「これで光るのかな?」「光ったら魔法だね」と子どもたちもまだ蛍光絵の具の光った物を見たことがなかった為、想像を膨らませていた。個々に魚の絵を描き、完成後ブラックライトを使って点灯式を行った。想像以上の光り方で、「らいおん組の水族館が出来たね」と水族館よりも綺麗な光を作ることができ、探究を喜んでた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子どもたちは光の変化や色の輝きを探究する事が出来た。最初に興味を示したブラックパネルシアターをきっかけにカラーセロハンや蛍光絵の具を使った活動から、子どもたちは光が色に与える影響や、色がどのように変化するのかを実際に体験し、視覚的な楽しさを感じることが出来た。特に水族館と段ボールで作った光のお家は、カラーセロハンや蛍光絵の具といった使い方が異なる道具を使って、色の重なりや光が透き通る様子を観察し、光の当たり方でも色が変わることには驚きを見せる等、友達同士の関わりを深めることに繋がった。またガラスデコでの制作は、色の光方や変化を自分の作品に反映させる楽しさを学び、光で表現する事を体験出来た。今回の光の活動で生まれた発見や驚きが、今後の探究に繋がる大きな一歩となったことを職員間でも振り返ることが出来た。